

黒貝戸遺跡 第38地点

遺跡名	黒貝戸遺跡
よみがな	くろかいといせき
調査地点	第38地点
主な時代	平安時代（約1200年～1100年前）
調査地	富士見市諏訪2丁目1612番6
調査面積	165 m ²
調査期間	平成29年10月2日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 平安時代の竪穴遺構1基</p> <p>【出土した主な遺物】 平安時代の須恵器壺、土師器甕</p> <p>【概要】</p> <p>黒貝戸遺跡は、北東側で荒川低地と接し、西側は宮脇遺跡、南側は殿山遺跡、北東側は折戸遺跡と隣接しています。</p> <p>当遺跡はこれまでの調査で、奈良～平安時代の竪穴住居跡9軒が確認されており、その内の1軒は鍛冶工房跡であることが明らかとなっています。</p> <p>今回の調査で確認された竪穴遺構は、覆土中から多量の粉碎された土師器甕片が出土しており、遺構の廃絶時に土砂とともに打ち砕いた甕を廃棄したものと考えられます。また、底面からは須恵器の長頸壺の頸部片が出土しています。</p> <p>竪穴遺構の底面はほぼ全面が赤く焼け、中央部やその周辺に柱穴が確認されており、本跡は何か特別な用途で使用されていたものと考えられます。</p>



竪穴遺構の遺物・焼土範囲出土状況



完掘状況